

〈公表にあたって〉

このたび、利島の教育改革の大きな柱として、教育大綱の改定を進めてまいりました。利島村“人づくりが島づくり”大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により規定された「地方公共団体の教育、学術及び文化の進行に関する総合的な施策の大綱」、すなわち教育大綱として定めるものです。「村長と話そう会」や2度の意見募集など、島民参加型の策定プロセスにより、令和6年1月24日に開催された利島村総合教育会議において決定されました。

「改定」というよりも、「練磨」といった表現が適切になるかと思いますが、平成28年8月公表の前大綱を更にバージョンアップしたイメージであります。高校の無い当村にとって、内地への高校進学は大きな課題ですが、同時に本人にとっては大人への成長に繋がる大きなチャンスでもあります。15の春に向け、島全体で応援するような大綱にしています。

また、「“人づくりが島づくり”大綱」という名の通り島民全体にとって拠りどころとなるようなものであることを願っております。島の宝でもある子供たちを島全体で支えていき、またその支える島民自身も成長できる。そのような利島を目指し、新しい教育大綱として公表します。

令和6年1月

利島村長 村山 将人
利島村教育長 弟子丸知樹

利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～

利島村は100周年！

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。

一人ひとりが自燃性を発揮し、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。



としまとずっと

≪3つの柱≫

そのために、以下3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

【人物像】「自燃性」の人



【3つの柱】(1)「当事者」



(2)「自立」



(3)「一体感」



- (1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり
 - ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
 - ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
 - ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいなくても利島に貢献できる仕組みの充実

- (2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり
 - ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
 - ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
 - ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

- (3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり
 - ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がる「舞台」の創出
 - ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
 - ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実